

風土記の丘の花だより¹⁶⁵

今、そしてこれから見られる植物(2022年12月17日)

さすがに師走、ますます寒くなってきました。先日(13日火曜日)の朝の霧はとても幻想的でした。わざわざ山に行って、写真を撮ってきました。残念ながら、日が上がるとすっかり消えてしまいました。さて、今回も花がないので、実を紹介します。



地味ですが、トウネズミモチの実です。次がネズミモチの実です。よく似ているので、まとめて紹介します。どちらもモクセイ科の木ですが、もともと自生していたのはネズミモチの方です。トウの方は、トウ・唐と付く名前からも分かるように外来の木です。丈夫なので庭木などとしてよく植えられています。特に道路の分離帯や、公園などに多く植えられています。トウの方の実は丸くて大きく、たくさん固まって付きますが、ネズミモチの方は細長く小さめで、少なめです。この実がネズミの糞に似ているので、こんな名前になったのです。常緑なので、冬でも葉を比べる事ができます。トウの方は広く大きく、葉脈が見えますが、ネズミモチは小さめで葉脈は日に透かしてもなかなか見えません。ここにはどちらもたくさん生えています。



山を歩いているとこんなものを見てびっくりしたことはありませんか?ウラシマソウの実です。春から初夏にかけてここでもたくさんの花が見られます。変わった形の花で、みなさん興味深げにご覧になっています。花だけでなく、実も変わっていますね。これはまだ立っていましたが、この季節、もう倒れてしまっているものもあります。



この実もご覧になったことがあると思います。カラスウリです。撮影場所は、資料館の西側ですが、正確には園内ではありません。風土記でもあちこちに生えていますが、なぜか実を見ることは少ないのです。白いネックレスみたいなスズメウリはたくさんあるので、それをご覧になってください。 松下